The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA
THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342
c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

国際会長主題　「輝かそう、あなたの光を」
アジア会長主題「「新しい時代とともに、エレガントに変化を」
東日本区理事主題　「未来に向けて今すぐ行動しよう」
あずさ部部長主題　「変わるに挑戦！」
東京西クラブ会長主題　「楽しく、元気で、そして仲間を迎えよう！」

2023年４月号
ＮＯ　５５９

その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。言葉は世にあった、世は言葉によって成ったが、世は言葉を認めなかった。
ヨハネによる福音書1章9節～10節

誕生日の一輪の花に思う

大野貞次

コロナの脅威も収まりつつある中で東京世田谷クラブとの３月合同例会は多くのゲスト・ビジターに参加をいただき、久ぶりににぎやかな例会になりましたね。３月は私の誕生日月でしたので両クラブからお祝いをいただきました。感謝です。クラブからは、かわいい花束をいただきました。家に帰り、水と花の活性剤を入れて飾りました。

この花が長期間持つには栄養が必要ですね。クラブも誕生してから 47 年を迎えます。設立時に比べると現在会員数も少なくなりました。高齢化が進み２年後の 50 周年まで持つのかと不安になります。クラブ活動の活性化には何が必要になるのか考えを巡らせていますが、なかなか答えが見つかりません。何度もこの問題に突き当たります。

花に栄養を与えるようにクラブ活動にも良い栄養をと思います。その栄養は会員の増強、そして若返りにつきますね。しかしその課題が熟していないのが現状です。いただいた花も残念ながらしぼんでしまいました。切り花は根がありませんので新しい芽を出すことはできません。クラブにも新しい花を咲かせるには良い土と種が必要です。若い会員を、50 周年を迎えるまでに迎え入れたいものですね。そして 50 周年記念例会をどのような形で実行できるか今から検討する楽しみを持ちたいと思っています。

クラブ役員

会　　長　高嶋美知子
副 会 長　吉田　明弘
書　　記　本川　悦子
会　　計　篠原　文恵
担当主事　横山　弥利

WHOウォーク４月案内
野鳥の楽園、谷津干潟

東京湾の埋め立て、都市化の中で残った谷津干潟は約 40 ヘクタール、一周 3,500mあります。満潮時には海水を一面にたたえ、干潮時には、カニが穴から出て餌を求め、浅瀬では小魚が銀鱗を光らせ、それを野鳥が狙います。水辺は、野鳥の天国。年間 120 種も確認されています。今は、北へ帰る渡り鳥の、旅立ちが始まっています。今回は、レンジャーの指導で双眼鏡を持って野鳥観察をするグループと、干潟全体を眺めながら自分たちで半周歩くグループに分かれ、最後に合流します。

コース：JR 総武線・津田沼駅－＜バス＞－津田沼高校前－谷津干潟（レクチャー・観察・散策）－習志野市営バラ園－京成線・谷津駅
集合･出発：JR 総武線・津田沼駅改札南口 10：00
受　付：初回の方は、必ず連絡先住所、電話番号を。
解　散：京成線・谷津 14：30 頃
携行品：名札、マスク、健康保険証、弁当）飲料、
参加費：300 円、施設利用代 200 円、野鳥観察グループ参加費 300 円（双眼鏡借用代含む）、交通費（各自負担）

３月の記録						ニコニコ	10,300 円
在籍者数	12人	メネット	0人			クラブファンド	0 円
（内功労会員）	1人						
出席者数	10人	コメット	一人			ファンド残高	114,715 円
メーキャップ	0人	ビジター	12人			ホテ校ファンド	7,100 円
出席率	91%	ゲスト	4人			ホテ校残高	58,070 円
内 Zoom 参加	0人	出席者合計	26人			WHO 参加者	24人

４月例会のご案内

強調テーマ： week4waste
グリーンプロジェクト

今月の例会は日本音楽療法士（弓町本郷教会）の二俣裕美子さんを迎えて、音楽療法のあれこれと、なぜ音楽療法士を目指すに至ったかなどをお話しいただきます。また皆さんで歌を歌ったり楽器を奏でたりしたいとのご希望です
ぜひ皆様にご出席いただきたく思います。

日時：４月20日(木)18：30～20：30
会場：ウェルファーム杉並　03-5335-7330
会費：1,500 円
担当：A 班（大野、篠原、村野）

HAPPY BIRTHDAY
15 日　鳥越　成代

受付　篠原　文恵
司会　大野　貞次

開会点鐘	会長・高嶋美知子
ワイズソング（静唱）	一　同
聖句朗読・祈祷	村野　絢子
ゲストご紹介	会　長
あずさ部長公式訪問ご挨拶	**後藤明久あずさ部長**
会食	
卓話　「音楽療法とは」	**日本音楽療法学会員　二俣裕美子さん**
ハッピーバースデー	会　長
ワイズ報告	会長、各担当
YMCA 報告	横山　弥利
ニコニコ	一　同
閉会点鐘	会　長

―３月事務会報告―

日時:3 月 23 日(木)17:00～19:00
会場：YMCA 山手センター
出席者：大野、篠原、本川、吉田
＜報告事項＞
①区役員研修会が御殿場東山荘 3 月 3-4 日行なわれ、本川次期会長が出席した。参加補助をクラブ会計から支出する。
②東京グリーンクラブの設立 50 周年設立記念例会が 3 月 21 日（土）KKR ホテル東京で行なわれ、石井、河原崎、篠原、本川、吉田が出席した。
＜協議事項＞
①新年度から事務会を阿佐ヶ谷地域区民センターですることを具体的に検討する。
②4 月、5 月の卓話者予定は次の通り。
4 月は大野さんに候補者に交渉（後日決定した）。
5 月は村野さんに交渉を依頼した。
③毎月の例会などの担当班は、現行 3 班としていたが 2 班に変更する。メンバー構成、変更時期は、後に定める。
④例会での食事を廃止し、食事は各自で摂る案が提案された。同時に例会時間を早めに設定し、早く閉会し、例会後に食事、軽食を摂る提案も出た。次回以降検討する。　（書記・本川悦子）

あずさ部第３回評議会

日時：5 月 13 日(土)
13:30～17:00
会場：松本駅前会館　4 階
長野県松本市深志 2-3-21
会費：2,000 円

2023－2024年度　次期会長、部役員ワークショップに参加して

3 月 4－5 日に日本 YMCA 同盟東山荘にて次期会長、部役員の研修会が行われ、研修Ⅱで、8 人のグループになってワールドカフェ「あなたにとっての豊かなクラブライフとは、あなたはそのためにどうしたい」というテーマで意見を交わしました。　（本川悦子）

東京グリーンクラブ設立50周年記念例会

3 月 21 日(土)　KKR ホテル東京にて東京グリーンクラブ設立 50 周年記念例会と祝会がおこなわれました。お客様は東京 YMCA 副総主事の星野太郎氏、東日本区理事佐藤重良さんはじめ、東日本区の役員、DBC の京都パレスクラブ、熱海クラブ、関連のクラブ、グリーンクラブのメンバー等総勢約 80 人が集いました。

1 部の記念例会では会長挨拶、来賓の祝辞、そして最後に 50 年間に逝去されたメンを偲んで終わり、2 部は「アンデイムジーク」による演奏会がおこなわれました。3 部は会場ではコロナのため疎遠になっていたメンたちの、ワイズらしい交流が深められていました。最後にチャーターメンバーに記念品贈呈と YMCA へ献金と記念品の贈呈式があり YMCA の歌、実行委員長の謝辞、樋口会長の閉会点鐘で式は閉会となりました。　（本川悦子）

卓話者紹介

二俣裕美子（ふたまた・ゆみこ）さん

1972 埼玉県草加市の草加藤学幼稚園にてキリスト教に触れて育つ。

1990 年国立音楽大学教育音楽学科第Ⅱ類卒業、在学中から知的障害を持つ子供たちの音楽活動や都内各地の障害者施設の非常勤講師に従事しながら音楽療法を学ぶ。

1994 年二俣泉と出会い弓町本郷教会に通い始め、受洗。2002 年に日本音楽療法士学会認定音療法士資格取得。2008 年～2013 年幼稚園の母親のためのハンドベルサークルの指導に従事、現在子供から大人までのピアノ指導を行う。

PITNA ピアノ指導者連盟会員。著書「静かな森の大きな木・誰かの音がする」(春明社・共著)

左：4月東京世田谷クラブとの合同例会後に。右：4月例会の卓話者、荒このみさん

－3月合同例会報告－

3月例会は3月16日、恒例の東京世田谷クラブとの合同例会。今回は東京西クラブがホスト役で会場はウェルファーム杉並。昨年は東京世田谷クラブのホストで、コロナ禍の下、リアル例会に出席できない人を考慮してハイブリット形式で行ったが、今回は会場の都合もあってハイブリット形式を採用することができず、出席できない方々に対しては誠に申し訳ないこととなってしまった。

さて、メインイヴェントの卓話はアメリカ文学者・東京外国語大学名誉教授の荒このみ先生をお招きして、「『風と共に去りぬ』読んだことがありますか？」と題してお話を伺った。私たちが「風と共に去りぬ」といえば、かの有名なヴィヴィアン・リー、クラーク・ゲイブル主演のラヴストーリー映画が全てだと思っていたが、実は原作者マーガレット・ミッチェルの作品は、当時のアメリカの時代を背景にした風習、考え方を描いた大作で、映画はその一部分のロマンスを描いたものでしかないとのことであった。

お話は、映画の役者の振る舞い、語りも含め当時のアメリカの風習、考え方などを、A4用紙3ページのテキストに沿って詳しくかつ興味深く、優れた話術で語られた。我々聞き手は素晴らしい内容を楽しく聴く一時であった。荒このみ先生に感謝。　（神谷幸男）

出席者：＜東京西＞石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、本川、村野、横山、吉田、＜東京世田谷＞秋田正人、岩﨑弘、江尻明子、小川圭一、小原武夫、松井直樹、峰毅、村野繁、＜ビジター＞小原史奈子、服部節子、藤江喜美子（東京たんぽぽ）、長谷川あや子（東京八王子）、＜ゲスト＞荒このみ（卓話者）、米本由美子、島田和子、池谷泉

WHOで訪ねた清泉女子大学構内にある旧薩摩侯爵邸

雨とサクラの島津侯爵邸
—３月ウォーキング報告—

3月は山手線の内側、目黒駅から品川駅の間にある城南五山のうち、徳川吉宗が桜木600本を植えさせた御殿山、旧島津侯爵邸の島津山、池田侯爵邸跡の池田山庭園で、サクラを楽しむ予定でした。中でも、なかなか入館の難しい、清泉女子大学が所有管理をしているジョサイア・コンドル設計による侯爵邸に入館し、庭でサクラを見ることが最大の魅力でした。3月25日はサクラの見頃にもぴったりで、参加者は、WHO開始以来初の70人台となるのではと、心配し、声がけも控えていました。ところが、当日は、前6日からの雨。やむ気配がありません。 JR五反田駅に集合したのは24人。残念でしたが、ほっともしました。

大学は駅から10分ほどの標高29mの中腹。きれいな校舎群の中で存在感があるのは1917（大正6）年建造の2階建て侯爵邸。通常は学生が案内するそうですが、今回は学長室の幹部スタッフ2人が務めてくださいました。各部屋を回り芝生の庭園に出ると、サクラが咲きこぼれています。この時に気づいたのですが、この日は春休みで学生や教職員の姿が見えず、私たちの貸し切り状態で優雅なお花見を味わいました。

雨脚は変わらず、公園での昼食もムリとあって中止を決断。それでも豪華なメインディッシュだけでなく、気のきいたもう一品が欲しいということで、選んだのが「ねむの木の庭」。美智子皇太后妃のご実家跡に造園したちいさな庭園。当時の面影は意識的に消されていますが、参加者のほとんどが、1959年のあのご成婚の世紀のパレードを知るものばかり、それぞれ、あの馬車の美智子さんの笑顔と時代を胸に描くことが出来ました。

後は、五反田駅を目指して、滑らないようにまっしぐら。解散して、三々五々、遅い昼食に散りました。　（吉田明弘）

ワイズ関係の出席者：石井（1月も）・吉田（東京西）、藤江・服部（東京たんぽぽ）、樋口（東京グリーン）、関（元石巻広域）

2023／４－４

☆☆インタビュー☆116☆
松本　公夫さんに聴く

甲府やまなみクラブ

＊　＊　＊

―松本さんとは甲府やまなみクラブチャーターナイトで初めてお会いしましたね。なんて明るく快活な人だろうと思いました。子どもの頃からですか。

「いいえ違います。私は東京世田谷で生れましたが、すでに父は戦死していて、当時、東京空襲が激しくなったため、母に連れられて兄弟と母の故郷、甲府に疎開しました。後に母も亡くなり、兄弟3人、別々に暮らしました。当時笑顔は少なく暗い顔の子供だったと思います。また、あまり勉強もしませんでした。ただ音楽の授業が好きという程度でした」

―中学では。

「バレーボールが好きで、高校でも熱中しました。大学は東京に出て、東京タワーのそばの下宿を借り、働きながら通っていましたが、この境遇では将来の夢が描けず、大学を辞めて海外に出たいと、自動車整備等の技術を身につけ、英会話も学んでいました。たまたま観た故ケネディー米国大統領が提唱した『アメリカピースコー』（平和部隊）の映画に感動し、『これだ』と決め、日本でも青年海外協力隊を設立していることを知り応募し、運良く合格しました。同期50名は3か月間の厳しい研修（早朝マラソン、言語、環境、治安、注意事項、規則等）を受け、それぞれ2年契約で要請国へ派遣されました。私はケニアでした。当初の任務地は、エチオピアまでの砂漠に道路建設する車両整備部署に実習生30人と配属されました。その時は1969年、24歳でした。そして2年間も過ぎ、モンバサと言う町の職業訓練所へ移動になりました。当時ケニアは貧富の差が大きく、地域によっては貧困層が多かったのですが、徐々に教育改革も進み生活も向上し、就職する人も増えてきていました。ケニア人は助け合う精神が強く特に同じ部族とは何かと分かち合う気持ちが強く、『何がなくても心まで貧しくない』と誇りを持った明るい若者達と過ごすうちに、自分の気持ちも過去から決別し、ボランティア活動に生きがいを見つけていました。しばらくここで働きたいと思いましたが、任期終了が迫っていました」

―もったいないですね。

「ここで思いがけない幸運がありました。私は就業後に学生時代に熱中したバレーボールで選手兼コーチをして訓練所チームを強く育成していたことから、訓練所の校長先生、スタッフから任期延長願いが出され、通算6年の任期をJICA本部が許可をしてくれたのです。彼らと過ごした6年間、私は自然に明るくなり生きる力、共生、助け合う気持ちが身についていました」

―帰国後は、どんな仕事に。

「ある国会議員の私設秘書を、2年間勤めましたが、自分の進みたい道と違うように思い、退職し、山梨に進出した大手企業に中間管理職として定年まで務めました。その後、別企業に契約社員で、実習生に日本語・生活指導者の仕事をしました。契約終了まじかに、県庁の知り合いから国際交流協会で研修課長を探していると言われ運よく採用となり、研修生等の生活指導業務を担当し、63歳から73歳まで勤務してサラリーマンに終止符を打ちました」

―山梨YMCAとの縁は。

「英語は国際共通語その必要性を感じ、帰国後からYMCAの英語クラスに所属し、今まで40年通っています。また、YMCA会員としてイベントや多文化共生事業等にも協力してきています。そこで大勢のワイズメンに会いましたが、クラブについては、よく知りませんでした」

―山梨YMCAの常議員やチャリティーランの実行委員長も務めておられますね。また個人的に山梨学院大学箱根駅伝に出場するケニアからの留学生の支援もされているとか。

「はい、山梨学院大学には、ケニアからの留学生が約30年前から来ており、スワヒリ語や英語を話せることから、またケニア時代にお世話になった恩返しもあり、長年世話人をしています。毎月1回練習がない日には、食事会をして観光スポット等を案内したり、山梨の事や生活上の相談にのったりもしております」

―出来ないことですね。

「いいえ、私の人生を変えてくれた恩返しの気持ちです。彼らの中に、他大学の監督になった卒業生も出ています」

―ワイズ入会はどうして。

「甲府クラブの仙洞田安宏さんと別団体の数人が新クラブを作りたいと始めた会に参加して、約4年勉強会を重ねました。そして（甲府やまなみクラブ）として、2022年9月に会員11人で、国際協会に加盟が認証されました」

―ワイズに入会して一番良かったことは。

「各事業を通して会員が助け合いの精神に基づいて活動されていることです。今後も会員と共にYMCA を応援していく所存であります」

―座右の銘はありますか。

「はい『多文化共生』です。何事も日本人単独では円滑にいかない事が多々あり、これからは外国人との共生の時代です。互いに理解しあい共存していきたいと思います」

―どうも有難うございました。

（吉田明弘）